

平成24年9月24日

奈良・人と自然の会
歴史文化クラブ 会員各位

11月研修会のご案内

歴史大好きの皆様、11月の研修会は、「蘇我氏の興亡の跡を訪ねて明日香路を歩く」をテーマに、古代日本史に大きな影響を与え、その後歴史の表舞台から去っていった蘇我氏にスポットを当てて、ゆかりの地を歩いてみたいと思います。

秋の明日香路を歩きながら1400年前の古代を振り返ってみましょう。意外な歴史の裏側が見えるかもしれません。多数の皆様のご参加をお待ちいたします。

担当世話人 杉本 登

《当日のスケジュール》

1. 日時 : 11月27日(火) 10時 近鉄橿原神宮前駅東口に集合
2. 行程 : 橿原神宮前駅 → (バス) 甘檜の丘 → 入鹿首塚 → 飛鳥寺 → 飛鳥座神社(昼食) → 県立万葉文化館 → 嶋の宮跡 → 石舞台古墳 → (バス) 近鉄飛鳥駅
(解散: 午後4時ごろ)
3. 持物 : 弁当、雨具、筆記用具など
4. ご参考 近鉄電車 時間
 - ・大和西大寺 急行 9:23発 橿原神宮前 9:56着
 - ・大阪阿倍野橋 9:20発 橿原神宮前 9:58着

以上

近つ飛鳥と遠つ飛鳥

古代の人々にとっても飛鳥は心のふるさとであったのでしよう。飛鳥は2つありました。近つ飛鳥は二上山の山麓の大阪側を言います。現在近つ飛鳥博物館が建っている辺りです。この辺りには用明天皇陵、推古天皇陵、聖徳太子の墓と飛鳥にゆかりの大王の墓が沢山あり、王陵の谷と呼ばれています。遠つ飛鳥は言うまでもなく大和の飛鳥です。古代の朝廷や政治の仕組みができたのが飛鳥時代で、欽明天皇から皇極天皇までの約100年間は代々の都は飛鳥に置かれました。飛鳥時代は蘇我氏が全盛を極めた時代と重なります。飛鳥時代即ち蘇我時代でもあったわけです。

蘇我氏はどこから来たか

現在の橿原市曾我の辺りとする説と大阪府柏原市の石川の上流とする説があります。双方とも根拠地であったと思われず。いずれにせよ渡来系の新興豪族で馬子の父、稲目の時に強大になり、天皇家の外戚となりました。稲目は大臣おおおみとなり権力を振るいました。仏教を倭国に広めようとし、古来の神祇官である物部氏ものべと対立しました。

臣と連

古代の豪族は行政官僚としての臣姓おみと職能集団としての連姓むらじの豪族に分かれていました。物部氏や中臣氏は古くから神祇を司る官僚であり、大王家に仕えてきました。また物部氏は大伴氏とともに軍事を管轄し言わば大王家の近衛隊長のような役割でした。臣姓の中の最大勢力が大臣おおおみの蘇我氏でした。連姓の最大勢力は物部氏で大連おおむらじでした。6世紀始めに百濟から仏教が伝来しましたが、古くからの神祇官である物部氏や中臣氏は仏教に反対しました。仏教を広めようとする蘇我氏と対する物部氏との間で宗教戦争ともいべき戦いが起こりました。これに大王家の皇子もそれぞれ蘇我系と物部系に別れ激しい戦いになりました。

蘇我と物部の宗教戦争

聖徳太子の父は蘇我稲目の娘堅塩媛きたしひめと欽明天皇の間に生まれた用明天皇です。母は同じく稲目の娘の小姉君おあねのきみと欽明天皇の間に生まれた穴穂部間人皇女あなほへはしひとのひめみこです。つまり父系も母系も蘇我で蘇我の血を濃く受けています。蘇我と物部の戦争が起こった時、十四歳であった聖徳太子（厩戸皇子）も蘇我系の皇子の一人として従軍し河内の物部氏の本拠地を攻めました。蘇我軍の方が数の上では圧倒していましたが、軍事を司る物部氏は強くしばしば蘇我軍は危機に陥りました。この時太子が仏教守護の四天王を祭り勝利を祈り物部氏を破ることができた逸話は有名です。この戦いの後、物部氏から奪った財で難波の地に建てられたのが四天王寺です。

蘇我馬子は大悪人か

日本書紀には馬子は崇峻天皇を殺した大悪人と書かれています。日本史上で天皇を殺した（大逆といいますが）者は馬子以外にはいません。直接手を下したわけではありませんが部下の東漢直駒やまとのあやのあたゐこまに

命じ殺させました。また、物部系の大王候補であった穴穂部皇子あなほべのみこや宅部皇子やかべのみこも殺しました。（斑鳩

にある藤木古墳の被葬者として有力視されています）天皇家の正史が日本書紀ですから馬子を大悪人と書くのは当然ですが、歴史は常に勝者の歴史で敗者は反論の余地がありません。このように馬子は意に従わぬものはたとえ大王でも殺すほどの絶対権力者でした。馬子は崇峻天皇の後の帝位に

敏達天皇の皇后であった豊御食炊屋媛とよみけのかしきやひめを即位させました。第33代推古天皇で日本最初の女帝です。

このように馬子は仏教を擁護し、寺を建て、仏教を広めました。また、冠位十二階の制度や十七条の憲法を定めて君臣の身分をはっきりさせました。（これらの制度は聖徳太子が定めたと言われているが、馬子が大いに協力したことは確かでしょう）このように馬子は意に従わぬ者はたとえ大王でも殺した絶対権力者でしたが、反面大政治家であったことも確かです。

聖徳太子はなぜ天皇になれなかったのか

聖徳太子は用明天皇の皇子であり母は穴穂部間人皇女で有力な皇位継承者でした。推古天皇のときに皇太子として政務を執ったと言紀には記されています。推古女帝は我が子の竹田皇子を溺愛していました。成人の暁には竹田皇子に皇位を継がせたいと強く願っていました。しかし、没年は不明ですが竹田皇子は若くして亡くなります。そこでやむなく帝位に留まったとされています。結果として推古天皇は聖徳太子よりも馬子よりも長く生き76歳の長寿を全うし34年の長期在位となりました。遺言により竹田皇子と同じ墓に葬られました。権力者馬子としても蘇我の血を強く引く推古女帝と摂政の聖徳太子とのトロイカ体制で政務をとるのが賢明と判断したと思われる。

法隆寺の不思議の数々

法隆寺は斑鳩寺とも呼ばれています、これほど大きな寺でありながら官寺ではなく私寺です。その創建は推古15年（607年）に聖徳太子が父用明天皇のご遺願を継いで寺と薬師如来を作られたと「薬師如来像」の光背銘に伝えています。その後、五重塔や講堂など重要な建物が順次建てられていきました。書紀には天智9年（670年）に落雷があり法隆寺が消失したとあります。しかし、再建の記録はありません。近年法隆寺の中門の南に若草伽藍跡の礎石が発見され、消失後の再建が確実となりました。法隆寺は全ての建物が国宝ですが、特に重要なものが五重塔です。高さは約32メートルあり、塔の中心の芯柱は樹齢2000年以上の檜材です。直径が2メートル半もある巨木を縦に4つに割り芯柱にしています。こんな長い木をどのようにして運んだのか？どのようにして割ったのか？十分な道具もない時代にどのように塔を完成させたのか？全ては謎です。法隆寺で五重塔や金堂を見るたびに飛鳥時代の匠の知恵とその技につくづく感服します。また、法隆寺を守っていた宮大工の集団に思いを寄せて感慨深いものがあります。これほどのものを作った古人のDNAが我々日本人の中に生きていると思うと日本人とは本当に優秀な民族なのだと改めて感じます。物づくりの伝統は古代から日本人の中に脈々と流れています。

- 538年 欽明天皇の時に百濟より仏教伝来する
- 603年 冠位十二階を定める
- 604年 十七条の憲法を定める
- 607年 聖德太子が小野妹子を隋に派遣
- 622年 聖德太子病没す
- 645年 乙巳の変(大化改新)
- 663年 白村江(はくすきのえ)の戦い
- 672年 壬申の乱

蘇我氏と天皇家系図

